

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
( 公 印 省 略 )

### 病害虫発生予察技術情報について

令和5年度病害虫発生予察技術情報第3号を公表したので送付します。

### 令和5年度病害虫発生予察技術情報 第3号

## 園芸作物の台風時期における病害虫対策について

台風の猛烈な風と雨は、農作物を傷つけ病害虫の発生を助長します。特に、病害の原因となる病原菌は、傷口や揺り動かされ弱った根などから侵入しやすくなります。また、施設栽培においては、強風により被覆資材が損傷すると害虫の侵入源になりますので、適時適切な病害虫対策に努めましょう。

#### 1 台風接近前の対策

- (1) 収穫できるものは前もって収穫する。
- (2) 冠水や停滞水を防止するため、排水路の点検や排水溝の整備を行う。
- (3) 暴風対策を行う。  
例: 果樹の幼木などは、丈夫な支柱で固定する。地這い栽培やキクの親株等草丈の低い作物等は防風ネット等でべたがけや上掛け被覆し、ネットが飛ばされないように固定する。オクラ等切り戻しが可能な作物は切り戻しを行う。
- (4) 施設では、ハウスバンドの締め直し等を行い、被覆資材のばたつきを防止する。  
耐風性の低いパイプハウスなどで栽培中のニガウリ、キュウリなどは支柱ネットを下ろして防風ネットで被覆し、固定する。

#### 2 台風通過後の対策

- (1) ベたがけ等した防風ネットは早めに取り除く。倒した株は早めに起こし、下ろした支柱ネットは再度誘引する。
- (2) 雨が少ない風台風の場合は、大量の水を散布して作物に付着した汚れや塩を洗い流し、病果・変形果を除去して、草勢の維持、回復を図る。
- (3) 冠水している場所は、速やかに排水処理をする。
- (4) 倒伏や地際部の揺さぶりにより根が浮いた作物は、土寄せなどして根を埋め戻す。
- (5) 台風通過後の晴天は萎れを助長するので、適時適切に遮光する。
- (6) 施設は損傷部がないかどうか点検し、欠損部分を補修する。
- (7) 施設では過湿になる場合があるので、換気に気をつける。
- (8) 樹勢が低下すると、病害虫の発生が助長されるため、液肥の葉面散布、登録農薬の予防散布を行う。
- (9) 被害が深刻で栽培を継続できない場合は、作物を放棄せず、速やかに処分する。特にナス科野菜はナスミバエの発生源になるため、落下果実など放置しない。



写真1. 防風ネットによる台風対策(べたがけ)



写真2. 防風ネットによる台風対策(うきがけ)



対策あり



被害少

図1. ニガウリにおける台風対策の状況

写真1、2、図1は「沖縄県における台風とその対策」から引用